研究班番号【74】

国際恋愛のトリセツ～文化を象徴するものとは～

英語班：金　吾允、滝田　晴

要約

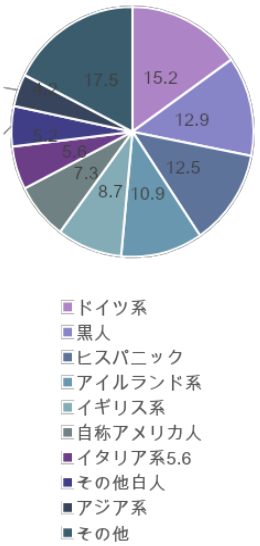
近年、国際結婚の増加とともに価値観の違いによるDVなどのトラブルも増加しているため、恋愛観を世界共通認識的に一般化して、このようなトラブル防止に少しでも役立てようと考えた。民族構成が恋愛観を左右する重要なカギになると仮定していたが、米英以外の英語圏では米英それぞれの特徴を持ち合わせた結果となった。したがって、恋愛観を一般化するには、極端な例である米英の中間を詰めればよいと考察した。

1．はじめに

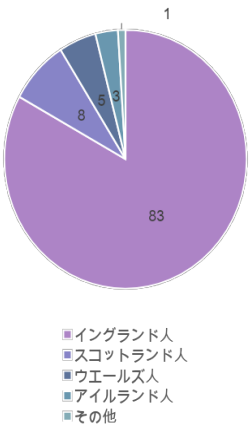
近年、国際恋愛の増加が見られる一方、DVなども増加している。そのためそれぞれの国の恋愛観を知ることで言語理解を超えた本当の意味での「グローバルな人間」になれるのではないかと考える。「言語は文化を象徴する」（池上　1982）との主張が正しいとするならば、同言語の国であれば恋愛観は同じだと考えられるが、その例外となる国が存在する。そのため本研究では、英語圏の国に限定し、英語の種類、気候、英語が第一言語か第二言語かどうか、宗教などの観点から恋愛観の違いを調べた。そして、恋愛観に影響を及ぼしうる要素をあぶり出し、いくつかの恋愛観がそれぞれ持つ傾向を整理する。その上でそれらの持つ共通点を探ることで、恋愛観に関する一般化を提示することを目的とする。

恋愛観の一般化をするにあたって、イギリスとアメリカの対照的な恋愛観を例とし、普遍化していくことにした。イギリスは「紳士的」、アメリカは「積極的」な恋愛観の特徴を持つ。どちらも英語が第一言語の国であるため、言語は恋愛観が異なる根拠とは言えない。そのため、本研究では、イギリスとアメリカの民族構成の違いに焦点を当てる。イギリスは単一民族国家に近く、アメリカは多民族国家に近いと言える。ならば、単一民族国家に近い国は「紳士的」、多民族国家に近い国は「積極的」な恋愛観の特徴を持つと考えられる。つまり、民族構成が恋愛観を決める要因であると言える。

アメリカの民族構成



イギリスの民族構成



２. 研究手法

≪実験１≫

未婚者既婚者関係なく、老若男女問わずにGoogleフォームを用いたアンケートを行った。その際にHiNative(スマートフォンアプリケーション)のタイムラインにアンケートを貼り付けた。

①仮説にもある対照的なアメリカとイギリスの恋愛観を調べた。

②その結果を英語圏の国々に拡張して歴史的、宗教的な視点でアメリカ型とイギリス型に分類した。(便宜上この表記を用いることとする。 一例、アメリカ型：積極的　イギリス型：紳士的)

③ここでGoogleフォームによるアンケートを行った。

アンケートの質問内容は以下の通りである。

④上記の調査結果に基づいて、恋愛観を象徴する要因を考察した。

３. 結果

≪実験１≫

もちろんアメリカ人とイギリス人はそれぞれアメリカ型、イギリス型というように分かれていたが、その他の英語圏の人々は国ごとにアメリカ型、イギリス型というように分かれるのではなくバランスの良い結果となった。

４. 考察

これらの結果より、恋愛観を一般化するためには、極端な例であるアメリカとイギリスの中間に焦点を当てれば良いのではないかと考えた。(中間というのは上記でも述べたようにアメリカ、イギリス以外の英語圏の国々がアメリカ型、イギリス型どちらかに偏っているわけではなくそれぞれの特徴をバランス良く持ち合わせており国ごとの大衆性に依存しない状態のことである。)これらを深く掘り下げることによってDVを含む国際恋愛のトラブルを防止することができ、いわゆる「良い恋」ができるのではないのかと考えた。

５. 結論

・まとめ

これまで何度も述べたようにアメリカとイギリスが極端な例であっただけで、国ごとの恋愛観の違い≒民族ごとの恋愛観の違い(必要十分性が崩壊すると考えたためあえて=とはしない。)などほぼ存在しなかった。

⇓

仮定が否定されてしまった。

事前調査では民族ごとにある考え方、性格があり本研究でもそれらが大いに利用できると期待していたのだが、恋愛観に関しては個人間でバラバラであり思ったように研究が進まなかった。

・今後の展望

アメリカとイギリス以外の英語圏の人々の恋愛観がバランスの良い形を取っているとするなら　ば、なぜアメリカとイギリスには本研究で特徴づけているようにこんなにも極端な違いが生じるの　かという問いに帰着する。少し研究の中でも考察したのだが、歴史的な要因が強いと考えられる。 例えば、アメリカとイギリスの間には元イギリスの植民地国と旧宗主国といったような関係があ　る。なので、今後はそのような歴史的背景にも焦点を当てていきたいと考えた。

６. 参考文献ならびに参考Webページ

・アメリカ英語とイギリス英語　ーここが違う　(中村芳信)http://hdl.handle.net/20.500.12001/5853　(1999.3.31沖縄大学紀要)

・国際恋愛の離婚率　(2020.8.26)

・ことばの詩学　(池上嘉彦)(1982)

・HiNative　(スマートフォンアプリケーション)

・外務省　https://www.mora.go.jp/mofaj/area/index.html